

大阪府における英語教育の方針：時事ニュースより

夫 明美

平成 26 年の夏も非常に暑さが厳しかったのですが、空に浮かぶ雲を見ると秋が近付いていることを実感します。

学生たちに新聞や専門ジャーナルを継続的に読むことを勧めている身として、筆者自身も各紙の教育ページや文科省・教育委員会の報告書、ホームページは定期的に読んでいます。そのなかで、大阪府教育委員会のホームページから、英語教育に関して 2 点気になるニュースがありましたので読者の皆様とシェアしたいと思います。

1 点目は「重点課題：小中学校の教育力を充実」内、「英語教育充実」におけるフォニックスの導入です。研究協力校（小学校）20 校から試験的にスタートし、「音と綴りの関係性についての規則性を理解」を目指すとして記述されています。低年齢の内は「音声」にたいする感覚が大人よりも敏感であることはよく知られた事実ですが、「綴りとの関係」をどのように授業に組み込んでいくのか、非常に注意深く観察したいと思いました。個人的に何よりも関心があるのは「そのような授業を行う資質をもった教員」をどのように育成するか、ということですが、こちらについては不勉強ですので、ご存じの読者の方からご教示いただければと思います。

2 点目は、平成 29 年度から高校入試の英語を大きく改革する方針です。受験生や受験生を指導する教員に直接影響を与えるであろう改革点は以下の 3 点かと思っています。

- ① 「聞く・書く」力を問う問題を 50%以上に設定する（機械的英作文からの脱却）
- ② より高度な「読む力」を求める出題スタイルとする（読むスピードを 2.7 倍に）
- ③ 問題文は全て英語

単純に計算して、現在中学 1 年生の学生からスタートする方針かと思いますが、③についてはある程度のパターンをあらかじめ教授することが可能としても、①と②については、付け焼刃では対応が（控えめにいっても）極めて困難であると思います。個人的に注意深く見守りたい点は以下のポイントです。

①でいう、自分の考えをまとめる英作文については、どのような採点基準を用いて採点を行うか。

②でいうスピードリーディングは 1 分当たりの語数が 35 語程度から 96 語程度に飛躍的に増加するが、このようなトレーニングを通常の授業に「全生徒」を対象に行うことは現実的なのか

■参考 URL■

平成 26 年度教育委員会部局運営方針・重点政策推進方針

http://www.pref.osaka.lg.jp/kikaku/bukyokuunei/26_14.html#w01

大阪府立高等学校の英語学力検査問題改革について

http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/eng_sam.html